

論説・解説

山形市蔵王温泉スキー場はシーズンを迎えたが、白洲次郎が蔵王に建てた山荘「ヒュッテ・ヤレン」を観光資源として生かす動きがある。白洲は戦後の混乱期に日本国憲法の草案作成に携わり、連合国軍総司令部(GHQ)と渡り合ったことで知られる。その後、東北電力初代会長となり蔵王に山荘を建てた。東京のNPO法人「元気・まちネット」(矢口正武代表=戸沢村出身)が保存運動を展開しており、来年6月には山荘の名を冠した山岳マラソン大会を蔵王で開く。

白洲は吉田茂元首相の右腕として憲法改正、サンフランシスコ平和条約締結で活躍し、米側から従順ならざる唯一の日本人」と言われた。マッカーサーを叱りつけたとも伝えられている。貿易省の初代長官となり、商工省を改組して通商産業省(現経済産業省)を設立した。

土曜コラム マルチアングル

1951(昭和26) 59年には

東北電力会長を務めた。青柳恵介著「風の男 白洲次郎」によれば、東北電力時代の白洲は東京事務所の役員室に常駐

蔵王の旧白洲次郎山荘

し、政財界の要人が面会に来たという。毎日新聞の安倍晋太郎(元外相、安倍晋三首相の父)ら白洲番の記者も出入りしていた。白洲はたびたび東北へ出向いたが、仙台の本社より作業着姿でダムの建設現場を訪れることが多かった。

蔵王が気に入り、57年に山荘を建てて冬はスキーを楽しんだ。山荘に滞在中は屋根に旗を掲げ、地元の人たちを歓迎した。白洲が貿易庁長官時代に部下だった安孫子藤吉知事(当時)らに、「蔵王を

通年観光見直す素材に

東洋のサンモリッツにしたらい」と語り、登山電車の整備を勧めたという。

山荘はその後、所有権が移り、ホテル建設に伴って土台ごと近くに移動した。木造2階建てで、2階に玄関とカウンタ―付きの台所兼居間があった。1階は近年、二段ベッドを置いた小さな寝室3部屋のリビングだったらしい。

白洲の山荘が蔵王にあることは地元でもあまり知られていなかったが、蔵王温泉観光協会は道路に面した案内看板や、蔵王での白洲のエピソードを入れた説明看板などを設置した。

「まちネット」は、老朽化が進む白洲山荘を通年観光に活用しようと2011年から保存に動いた。矢口代表が都内の建築家らと建物を調査し、改修に向け募金を始めた。寄せられた約50万円を今年6月に修復工事を行い、1階の壁や柱を撤去して創建時の間取りを再現した。

この間、保存運動を知った東京の男性から貴重な写真が届いた。男性の父親は白洲と交流があり、アルバムに山荘の内部や周りで撮影した写真を貼っていたという。矢口さんが男性に依頼し、白黒写真約50枚を焼き増してもらった。1959(昭和34)年に撮ったもので、白洲がたばこをくわえて1階のソファでくつろいだり、仲間と一緒に2階のキッチン

にいた姿などが含まれている。「まちネット」

は来年6月15日、蔵王でヒュッテ・ヤレン杯第1回蔵王温泉国際トレイルランニング大会を開く。緑豊かな蔵王の自然を生かすイベントで、個人、駅伝、親子の3クラスで参加者を募集する。ちょうど山形デスティネーションキャンペーンが開幕する時期。矢口さんは「蔵王は山岳温泉保養地として一年中、観光客を集める魅力がある。白洲次郎が唱えた『東洋のサンモリッツ』を実現してほしい」と話している。

論説委員 伊藤哲哉